

科目ナンバー	MAN-A-2-06		
授業コード	31013		
科目名	中小企業論入門		
担当者	崔 汀我		
開講期	2022年度秋学期	科目区分	週間授業
履修開始年次	1年	単位数	2単位
曜日/時限	木曜3限	授業の方法	講義
授業題目	日本の中小企業の現状と役割		
授業の達成目標	本講義は入門であるため、日本経済における中小企業の役割についてまず理解することを目的とする。そして、なぜ中小企業論を学ぶのか、中小企業論とは何を学ぶことなのかを理解し、中小企業の現状と課題は何であるかを説明できることを目標とする。		
今年度の授業内容	日本経済における中小企業の役割、中小企業の歴史、現状、今後の展望について、理論的・実証的・政策的に分析する。		
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間について	各回の授業で扱うテーマについて、参考文献、書籍などから予習しノートにまとめておく。授業後は、配布資料や講義ノートを見直して自分なりにまとめ直し理解を深めておくこと。	合計60時間	
自習に関する一般的な指示事項	日ごろから新聞、ニュース、書籍などで、中小企業の情報に敏感になることが望ましい。気になった内容は、メモを取る習慣をつけること。		
授業スケジュール			
第1回	ガイダンス（授業の進め方の説明）とイントロダクション（なぜ中小企業論を学ぶのか）		
第2回	中小企業の定義		
第3回	中小企業の類型		
第4回	中小企業の構造的特徴（事業所数の推移、開業数と廃業数の推移など）		
第5回	ケース・スタディ		
第6回	中小企業の問題性と貢献性		
第7回	中小企業の労働問題		
第8回	ケース・スタディ		
第9回	中小企業と下請制		
第10回	中小企業の存立分野（産業構造の変化、グローバル化など）		
第11回	中小企業と産業集積（地域経済との関係）		
第12回	中小企業のマネジメントの特徴		
第13回	中小企業金融		
第14回	中小企業と政策		
第15回	まとめ：中小企業の課題と展望		
授業の運営方法	・講義形式。適宜、授業内小レポートの提出あり。現場の臨場感を味わうため、映像資料も使用する。 * 対面授業で実施します。状況によって非対面授業になる場合は、Microsoft Teamsによるリアルタイム授業で行います。具体的内容は、「その他、履修生への注意事項」を参照のこと。		
課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法	レポートに対するフィードバックを翌週授業内冒頭にて行う。		
成績評価の方法 ※次の評価基準・割合に基づき評価されます。			
評価の種類	割合（%）	評価方法、評価基準	
定期試験		0%	実施しない
小論文・レポート		80%	中間レポート、期末レポート
その他		20%	授業内小レポート

テキスト	特に指定しません。必要に応じて資料を配布します。
参考文献	『現代中小企業論』高田良爾ほか、同友館、2009年 ISBN : 978-4496047589 など
関連ページ	
その他、履修生への注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遠隔授業については、Microsoft Teamsを使用しリアルタイムで行います。 (初回授業の前に履修生宛てにTeamsのコードを伝えるので、遠隔授業の日はTeamsにアクセスしコード入力をしてチームに参加すること)</li> <li>・遠隔授業をリアルタイム配信する際は授業内で出欠の確認を行います。</li> <li>・中間レポートと期末レポート、および授業内小レポート等の総合点で成績を付けます。</li> </ul>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	
実務経験のある教員による授業科目（令和2年度から該当科目に記載されます）	
実務経験の概要	
実務経験と授業科目との関連性	